

第 64 回プログラミング・シンポジウムの開催にあたって

今年も、冬のプログラミング・シンポジウムを無事に開催することができそうです。今年の開催時期は、(現地開催であった) 第 61 回までと同様のスケジュールで、年明けすぐの 1 月 6 日(金)～8 日(日)となりました。これまでと違うのは、ハイブリッド開催にて行う(おそらく)初めてのプログラミング・シンポジウムとなったことです。新型コロナウイルス感染症の状況は依然として予断を許しませんが、現地に集まって face-to-face で話ができることの重要性を考慮し、複数回の幹事会での議論の末、ハイブリッド開催とすることを決めました。情報系にとって区切りの良い第 64 回の開催を、現地参加者を含めた形で実施できることを嬉しく思います。

第 64 回プログラミング・シンポジウムでは、招待講演 1 件、一般講演 10 件、口頭発表 8 件、ポスター・デモ発表 5 件のほか、各種報告や GPCC が行われます。現地参加の人数こそ少ないものの、発表数の観点では第 61 回と同程度の規模となりました。

本年度より、松崎が幹事長を務めさせていただきます。前任の横山さんには、4 年間幹事長をお務めいただきました。感謝申し上げます。今年は特に、現地開催のノウハウが薄れつつあったこと、初めてのハイブリッド開催、新しい会場での開催など、考慮することも多かったことありますが、私の未熟さによる不手際なども多々あったかと思えます。引き続き頑張っていきたいと思えますので、プログラミング・シンポジウムをさらに続けられるよう皆様のお力添えをいただけますよう、どうぞよろしくお願ひします。

昨年の夏のプログラミング・シンポジウムについては、事情により開催ができませんでした。新型コロナウイルス感染症の状況が今後改善していくことを期待しつつ、こちらもハイブリッド開催を含めた形で再開していければと考えております。夏のプログラミング・シンポジウムの開催形態やテーマなど、何か良いアイデアがありましたら、ぜひアンケートにて、または幹事団へ直接でも構いません、ご提案いただけましたら幸いです。

第 55 回情報科学若手の会は、2022 年 9 月 23 日から 25 日にかけて、長野県に加藤山崎教育基金軽井沢研修所を会場としてハイブリッド開催の形で開催されました。招待講演者を含む 17 名が現地参加・56 名がオンライン参加し、様々な分野の発表とそれらに対する活発な議論が行われました。幹事の武田真之さん、久下柁さん、黒崎優太さん、田中京介さん、和田佳大さん、どうもありがとうございました。

現在の幹事団の体制は、幹事長の松崎のほか、大島聡史さん、新屋良磨さん、三廻部大さん、八木原勇太さん、渡辺勇士さんとなっております。昨年度末に前幹事長の横山さんが退任されました。一方、新屋さんは任期を延長して引き受けていただいております。今回、無事に開催できるのは、幹事の各メンバーの活躍によるものです。

第 64 回プログラミング・シンポジウムが皆様にとって有意義な会となることを願ひます。

プログラミング・シンポジウム委員会
幹事長 松崎 公紀 (高知工科大学)

